

発行……吉原市役所
吉原市今泉43の1(電②3111)
編集……市長公室

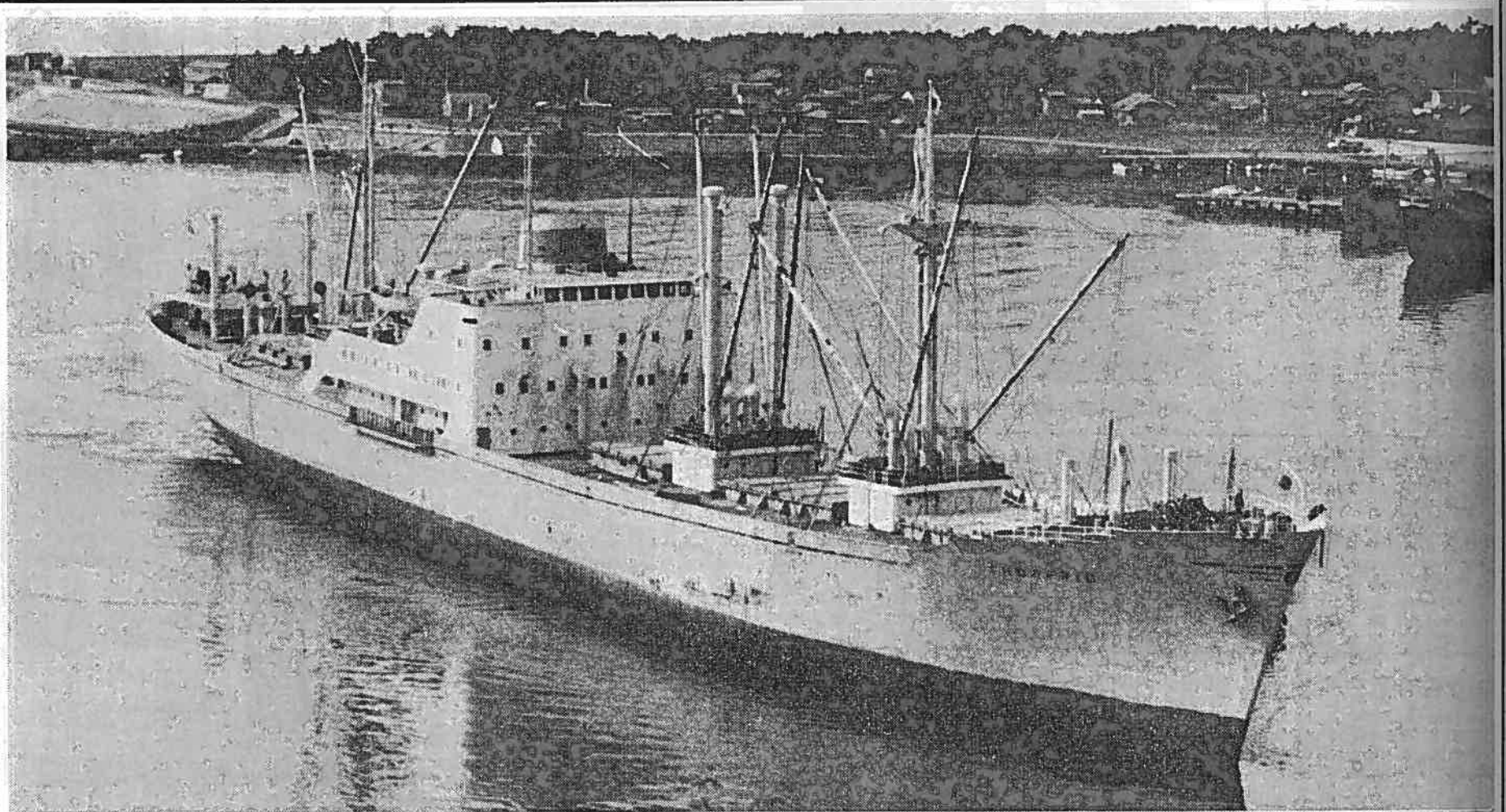
よしおら

市民の動き

(3月31日現在)

男	……	45,081
女	……	44,198
計	……	89,279

世帯数 …… 19,863



貿易港へ航路ひらく田子の浦港

一万トン級が入港

初の外国船を盛大に歓迎

岳南工業地帯(吉原市、富士市、鷹岡町)の表玄関として築港が進められている田子の浦港は、日増しに商工業港としての姿を深め、去る四月十二日には、初の一万トン級のノルウエー貨物船「ソールフリッド号」(B・ニコライセン船長九六九二トン)が、港わきに建設された日本食品化工のコンスタイチ(澱粉)の原料、トウモロコシを積載して入港し、いよいよ本格的な活動を開始しました。

田子の浦港は、昭和三十三年港湾技術の粋を結集して、掘り込み式という工法で建設がはじめられ、中でも築堤は港口部が漂流土砂と駿河湾の荒波をまともに受けて難行し、そのうえ同年九月の22号、三十四年九月の伊勢湾台風で大きな被害を出すなど一時は築港が危ぶまれました。しかし、人間技術の巨大なメスは着実に田子の浦港を整型しなおし、三十六年八月、第一船の入港とともに待望の航路が開けたのであります。さらに昨年は、国の重要港湾の指定を受けるなど、その進捗(しんちよく)はめざましく、完成の四五年には、泊地総面積四万五千方米、一万トン三バース、五千トン八バース、三千トン十バースで、年間二五〇万トンの貨物扱いができる規模となります。

この築港が進むにつれ、港の周辺には食品、薬品、セメント工場、石油基地など大手企業が続々進出し、すでに食品コンビナートは操業を開始するなど、地域経済に大きな役割を果そうとしています。ちなみに昨年一年間の入港船舶は汽船一四六九隻、機帆船一二四五隻、出入貨物量は、鉱物類の六九万トンを筆頭に七九万トンとなり、四十年は百三十万トンの荷役が予想されています。

このように清水港と並ぶ県内二大商工業港へ国際貿易港へと無限の航路を開こうとする田子の浦港に、待望の大型外国貨物船「ソールフリッド号」が、アメリカのニューオーリンズからトウモロコシ七千トンを積載して入港しました。外国船入港の第一号をむかえ、さつそく県、吉原、富士の両市では、午後一時から中央ふ頭で歓迎会を開き、B・ニコライセン船長航海長らに花束や日本人形を贈って、盛大に歓迎しました。斉藤市長は「ソールフリッド号の入港は、当地区発展の歴史に輝かしい一頁を加えるもので、誠に意義深いものがあり、私たちの大きな喜びであります。この度のみなさん方のご来訪によって生まれた私たちの友情が「きつな」となつて、これからノルウェイと日本両国民の相互の信頼と理解を深める親善のかけはしとなるならば、これにこした喜びはありません」とメソセージを贈りました。

このノルウェイ船に続き、十九日にはギリシャ船「パールストン号」(九千トン級)が入港するなど、やがて国際色も豊かに出船入船で賑わう、この港内から、富士の峰にこだまするドラの音は、栄えゆく岳南工部のシンボルとなることでしょう。

〔写真(上) 外国船入港第一号の「ソールフリッド号」(左) タラップを降り歓迎に迎えるB・ニコライセン船長ら(右) 振袖姿のお嬢さんから花束を受ける乗組員〕